



報道関係者各位

2024.8
嵯峨嵐山文華館



企画展：HAIKUとHAIGA ー芭蕉と蕪村、2人のカリスマー

俳聖・芭蕉と後世に芭蕉を顕彰した蕪村を中心に広がる俳句と俳画の世界

2024年秋、嵯峨嵐山文華館では俳句と俳画の企画展を開催します。俳句はわずか17音の中に季節を表す言葉を詠み込む日本独自の詩形で、その特徴は世界でも類を見ません。「俳諧の連歌」として始まりましたが、松尾芭蕉（1644-1694）によって芸術の域に高められました。俳句は現在、国内外で人気を博し、学校の教材としても使用されています。

俳画とは俳句と絵が一体となった作品で、芭蕉をはじめ多くの俳人が手がけました。中でも与謝蕪村（1716-1783）による俳画は優れており、俳句に詠まれた情景や事柄をそのまま描かず、見る人の想像を膨らませる工夫がなされています。

本展では、芭蕉直筆の《「ふる池や」発句短冊・極書》や2022年に再発見され話題となった、《野ざらし紀行図巻》、蕪村の《「いかだしの」自画賛》など多くの優れた俳画を展示します。名品を通して、俳句愛好家だけでなく、初心者の方も俳句と俳画の魅力を感じることができる絶好の機会です。

会期：2024年10月12日（土）～2025年1月19日（日）

展示替えなし※展示箇所の一部変更あり

【主催】 嵯峨嵐山文華館
【後援】 京都府 京都市 京都市教育委員会、京都商工会議所
【会場】 嵯峨嵐山文華館

【作品点数】 合計：30点

第1章 芭蕉の俳句



松尾芭蕉《野ざらし紀行図巻》（冒頭・野ざらしを部分）17世紀

第1章は俳聖・松尾芭蕉にまつわる作品を紹介します。芭蕉ほど生涯にわたって俳句の作り方（俳風）を変化させた人物は稀です。芭蕉は、40歳頃までは言葉遊びを中心とした俳風や当時流行していた字余りや漢詩の調子を用いて句を作っていました。

41歳の秋、「野ざらし」（骸骨）になることを覚悟した句を詠んで出発した『野ざらし紀行』では、特に名前もない山に春を感じたという体験を「春なれや名もなき山の薄霞」という句にするなど、旅の中で見たことをそのまま句にするようになります。芭蕉自らこの旅の様子を絵に表し、文字を加えた《野ざらし紀行図巻》は、2022年に再発見され、福田美術館のコレクションに加わりました。このたび、嵯峨嵐山文華館としては初めての展示です。

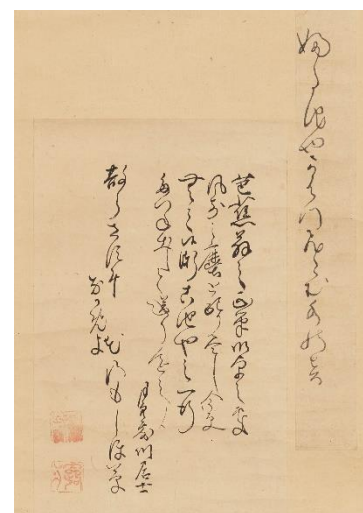
芭蕉直筆の『野ざらし紀行』は天理本（天理大学附属天理図書館蔵）以外に福田本（福田美術館蔵）しか確認されておらず、中でも福田本は全体にわたって文章とともに鮮やかな挿絵が描かれた大変貴重な作品です。

本章では、《野ざらし紀行図巻》の他に《「ふる池や」発句短冊・極書》など芭蕉の代表作品を展示します。

また、芭蕉に絵を教えたとされる森川許六筆《百花譜》も初公開いたします。



松尾芭蕉《野ざらし紀行図巻》卷子 17世紀



松尾芭蕉《「古池や」発句短冊・極書》17世紀



森川許六《百花譜》（部分）17世紀 ※会期中場面替えあり

第2章 蕪村の俳画

第2章は与謝蕪村の作品を中心に展示します。蕪村は大坂に生まれ、20歳頃江戸に出て俳諧を学びますが、27歳から約10年間僧侶として北関東・東北地方を放浪します。42歳頃から京に定住、僧侶を辞めて結婚しました。

蕪村は、絵画と俳諧の2つの分野で活躍し、絵に発句を書き添えた作品を多数描きます。これは後に「俳画」と呼ばれますが、蕪村の時代にまだこの用語はなく、手紙の中では「俳諧ものの草画」と呼ばれました。「草画」とは細部まで丁寧に描いたり、濃い色を付けず、大まかに描いた作品を指します。

本章では蕪村の俳画を多く展示するだけでなく、横井金谷（きんこく）などの弟子の作品や呉春による俳画も紹介します。



与謝蕪村《松尾芭蕉像》
1782年頃



与謝蕪村《春借しむ》自画賛
(部分) 18世紀

第3章 池田遙邨 山頭火シリーズ

大正から昭和にかけて活躍した画家・池田遙邨（ようそん）は、大阪で洋画を学んだ後、小野竹喬の紹介で竹内栖鳳に師事して日本画へと転向しました。93歳で亡くなるまで、精力的に絵筆を執り続けました。

晩年は漂泊の俳人・種田山頭火（たねださんとうか）に心を寄せ、彼の句の世界を絵画化することに挑戦しました。これらは「山頭火シリーズ」と呼ばれ、現在28点が確認されていますが、ここではそのうちの4点とその下絵を展示します。京都では大変貴重な機会となりますのでぜひご覧ください。



池田遙邨
《山頭火シリーズ すすきのひかりさえぎるものなし》
1988年頃

特別イベント企画

● はじめての句会体験

開催日時：10月26日（土）13:30-15:30

嵯峨嵐山文華館では企画展「HAIKUとHAIGA 一芭蕉と蕪村、二人のカリスマ」において、誰もが気楽に句会を体験できるイベントを開催します。先人たちの俳句を楽しみ、自分でも一句ひねってみてはいかがでしょうか。初心者歓迎です。ホームページからお申し込みください。 ※予約制（HPから）。参加費 2000円（入館料別）

● 吉海先生講演「和歌から枝分かれした俳句」

開催日時：12月7日（土）13:30-14:30

百人一首研究の第一人者である、同志社女子大学名誉教授・吉海直人先生が、百人一首と俳句の関わりについてわかりやすくお話しします。 ※予約不要、入館料のみで聴講可能

展覧会概要

- 企画展名 HAIKUとHAIGA 一芭蕉と蕪村、2人のカリスマー
- 会 期 2024年10月12日（土）～2025年1月19日（日）
12月3日（火）に展示箇所の一部変更
- 開館時間 10:00～17:00（最終入館 16:30）
- 休 館 12月3日（火）、12月30日（月）～1月1日（水）
- 主 催 嵯峨嵐山文華館
■後 援 京都府、京都市、京都市教育委員会、京都商工会議所
- アクセス 〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11
JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩14分
阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩13分
嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩5分

■料 金

一般・大学生	高校生	小・中学生	その他
1,000 (900) 円	600 (500) 円	400 (350) 円	* 障がい者と介添人1名まで各600 (500) 円 * 幼児無料 * () 内は20名以上の団体料金

< 福田美術館との両館共通券 >

一般・大学生：2,300円／高校生：1,300円／小中学生：750円／障がい者と介添人1名まで：各1,300円

プレスリリース／広報用画像に関するお問合せ

嵯峨嵐山文華館（共同ピーアール内）

担当：田中、樋口

TEL：03-6264-2045 Email：samac-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

■ 嵯峨嵐山文華館について

TEL：075-882-1111（嵯峨嵐山文華館事務局）

お問い合わせフォーム：<https://www.samac.jp/contact>

プレス用画像一覧_1

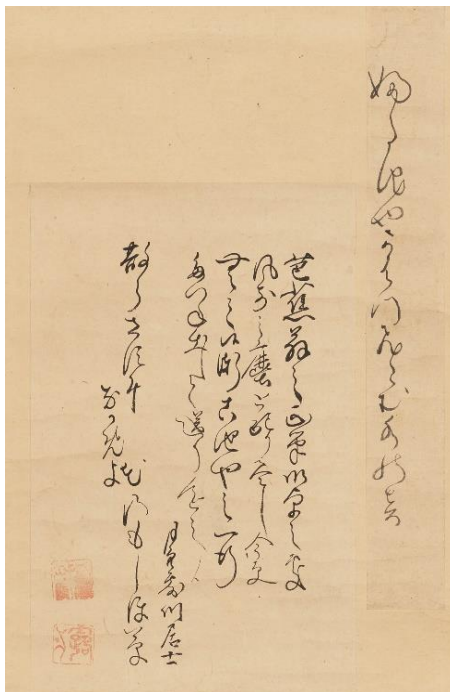
※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/haikutohaiga/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



① 中村芳中《松尾芭蕉像》
18-19世紀



② 松尾芭蕉 句・沢露川 極書
《「古池や」発句短冊・極書》
俳句：17世紀 極書：17～18世紀



③ 松尾芭蕉《野ざらし紀行図巻》（冒頭・野ざらしを部分）17世紀



④ 松尾芭蕉《野ざらし紀行図巻》（白けしに／牡丹菫／甲斐・行駒の／江戸・夏衣部分）17世紀



⑤ 松尾芭蕉《野ざらし紀行図巻》卷子
17世紀



⑥ 松尾芭蕉《野ざらし紀行図巻》（大井川・秋の日の／道のへの／馬に寝て部分）17世紀

※全て福田美術館蔵
※会期中場面替えあり

プレス用画像一覧_2

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/haikutohaiga/>

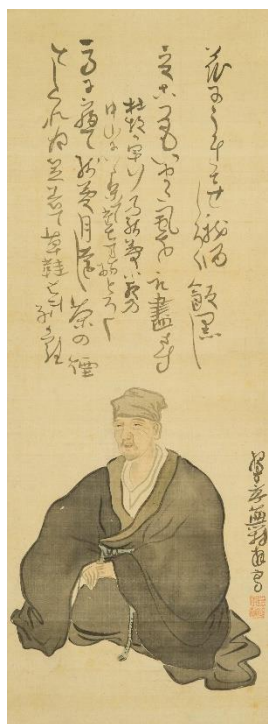
※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



⑦ 森川許六《百花譜》（部分）1704年



⑧ 森川許六《百花譜》（部分）1704年



⑨ 与謝蕪村《松尾芭蕉像》
1782年頃



⑩ 与謝蕪村《春惜しむ》自画像
18世紀



⑪ 池田達郎《山頭火シリーズ すずきのひかりさえぎるものなし》
1988年頃

※全て福田美術館蔵
※会期中場面替えあり



⑫ 了川《奥の細道図巻模写》（部分）1833年

嵯峨嵐山文華館について

百人一首の歴史と日本画の粋を伝えるミュージアム

1000年以上も前から歌枕として詠まれ、愛されてきた嵯峨嵐山の風景。当館はこの地で誕生したと伝えられる百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えるミュージアムです。石段を上がり、冠木門をくぐって足を踏み入れると、春はしだれ桜、初夏はサツキツツジ、秋は紅葉、冬は冠雪と、四季の美しさを楽しめる石庭。百人一首ゆかりの小倉山を背にし、大堰川を借景として取り込む2階からの眺めは、まさに日本画の世界のようです。



1階の常設展示では100体の歌仙人形（フィギュア）と歌の英訳が並び、藤原定家によって百人一首が撰ばれた時から昨今人気の競技かるたに至るまでの変遷をご紹介します。また120畳の広々とした2階の畳ギャラリーでは、じっくり座って自由に鑑賞することも可能。石庭を望むテラスにはカフェスペースが設けられており、景色を楽しみながらお寛ぎいただけます。

